

都立大ビジネススクール

東京都立大学 大学院

経営学研究科 経営学専攻 博士前期課程

経営学プログラム

修士（経営学）

MBAP
program

MBA Program Director



東京都立大学大学院
経営学研究科 教授
経営学プログラム (MBA)
プログラムディレクター

水越 康介

経営学プログラム (Master of Business Administration, MBA プログラム) は、2003 年 4 月、社会人を主な対象として都庁キャンパスに設置された高度専門職業人養成プログラムに端を発します。2016 年には新設の丸の内サテライトキャンパスに移転を果たし、2018 年からは現在の名称となりました。近年の世界経済の不確実性・複雑性はますます拡大し、企業や公共部門のマネジメントを担う人材には従来にも増して高度な知識と思考力を兼ね備えることが求められています。こうした環境の変化に対応し、20 年以上にわたって、本プログラムはビジネス環境を緻密に分析し経営戦略を立案する能力、組織や制度を設計し変革する能力、そしてビジョンと高い志を兼ね備えて果断に意思決定できるマインドをもつ多くのビジネスパーソンを養成しています。

本プログラムの大きな特徴は、第一線の研究者でもある専任教員を中心にした高度な少人数教育にあります。単なるノウハウを教えるのではなく、最先端の研究成果を踏まえたマネジメントの本質に迫る授業が数多く提供され、自ら学び考える力が身につきます。本プログラムの修了には修士論文もしくは課題研究論文が必須であることも特徴の一つです。論文の執筆には総合的な思考力が問われ、並大抵のことではありません。しかし、本人の努力と教員の密度の高い指導により、多くの方が優れた論文を完成させています。修士論文に引き続き、博士論文の制作を目指すようになる方々もいます。また、経営学研究科は経営学プログラムに加えて、ファイナンスプログラム、経済学プログラムの三本立てとなっており、他プログラムのほとんどすべての科目も幅広く履修することができます。

授業は丸の内サテライトキャンパスで、平日夜間及び土曜日に開講されます。同キャンパスには最新の設備を擁しており、優れた教育・研究環境が提供され、立地的にも多くの方にとって通学至便となっています。主体的に問題を発見し、課題解決力を磨きたいという意欲をもつ方々が本学経営学プログラムに入学され、2 年間の研鑽の後に MBA を取得されて、社会や自己に新たな価値を創造できる人材として更に高く羽ばたかれることを期待しております。

Mission

ミッション

経営学プログラム（MBA）は、産業の活性化を通じて首都東京と我が国に活力を与えていきます。そのために、科学的な思考能力を基礎とした戦略的な構想のもとで、新たな組織や制度を構築し、また既存の組織や制度を変革しうるビジネスリーダーや、学術的な課題を自ら設定して研究を遂行できる能力を持った研究者の養成を目指します。

Characteristics

特徴

高度な学び — 5つの教育研究プロジェクト —

「経営戦略」「マーケティング」「経営組織・HRM・意思決定」「会計学」「データサイエンス」の5つの教育研究プロジェクトがあり高度で徹底した教育がおこなわれています。

徹底した少人数教育

充実した専任教員体制により、講義や演習科目を提供し、丁寧な指導で修士論文等の完成に導きます。文系・理系を問わず多様な人材を受け入れます。

公立 MBA としての強み — 働きながら学べる —

東京駅至近のキャンパスで平日の夜間と土曜日を中心に学べます。都民の方は入学金が半額となります。

実務界との連携

以下の4団体より寄附講義を受け入れ、最先端のテーマに関する実践的な講義を提供しています。

公益社団法人日本証券アナリスト協会：経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅰ）

一般社団法人日本 IR 協議会：経営学特別講義（サステナブル経営と資本市場Ⅱ）

一般社団法人日本 CFO 協会：事業リスクマネジメント

一般財団法人会計教育研修機構：ファイナンシャルプランニング

※講義名順

この他にも経営者とディスカッションできるビジネスイノベーション演習、実務家を講師に招いた経営学演習などを通じて実践につながる学習が可能です。

Projects

教育研究プロジェクト一覧 (2024年4月現在)

■ 出願時に選択した教育研究プロジェクトを中心として、修士論文や課題研究論文の指導が行われます。

■ 1年次には、所属する教育研究プロジェクトの担当教員の演習を受講して、理論的な研究とともに研究の方法論などを学びます。

■ 2年次に、教育研究プロジェクト担当教員から指導教員が決定され、当該教員を中心とした指導体制のもとで論文作成に取り組みます。

1. 経営戦略（松田・松尾・井口）

戦略プランニングの目的は、不確実性の高い事業環境において、企業目標となる価値を創造し、価値を獲得するための長期的な時間展開となる道筋を提示することにあります。戦略が実効性を高めるためには、なぜそのような戦略を選択するのか、企業組織に提示することによって組織メンバーを説得し、コントロールできるだけの戦略の「論理性」が必要です。経営戦略プロジェクトでは、企業の経営資源や組織能力と持続的競争優位の関係性、或いは市場との関係性に焦点をあてて、企業ケースやこれまでの学問的研究を広く展望して、企業の戦略行動についての実証的分析や理論的考察を行うことで、プロジェクトメンバーの「論理性」を養成します。

2. マーケティング（中山・水越・森）

顧客を中心とした企業活動を行うためには、マーケティングの思想と科学的なリサーチメソッドが必要になります。このプロジェクトでは、マーケティング論を中心とした研究業績を基礎にしながら、同時に最先端のマーケティング・サイエンスやリサーチメソッドを学ぶことを通じて、顧客との長期的な関係を構築し、新たな価値を創造していく論理の理解を深めます。論文指導では、各自の問題意識に応じて、これまでの研究蓄積を踏まえた新しい論理やマーケティングの可能性を明らかにすべく、分厚い事例研究や精緻な実証研究を進めていきます。

3. 経営組織・HRM・意思決定（高尾・長瀬・加藤・高橋・西村）

組織と人に関わる諸問題への学術的なアプローチを体系的に学びます。組織における個人・集団及びその行動を分析対象とする組織行動論、組織能力の構築につながる人材の活用・育成・評価などを検討する人的資源管理論（HRM）、人間の現実の意思決定のありようを心理実験などから明らかにする行動意思決定論が主たるバックボーンになります。さらにそれらを基盤として、自らの問題意識にしたがって研究を進めます。論文執筆では、現在の経営環境で直面する組織やそれにかかわる人の具体的な問題について、また人間一般の心理の本質について、実証的分析や理論的考察を行います。

4. 会 計 学（野口・細海）

会計学プロジェクトでは、企業外部の関係者を情報提供のターゲットとした財務会計領域と、経営者などの内部者をターゲットとした管理会計領域、双方の研究プロジェクトを推進しています。財務会計領域では、主として、(1) 企業会計制度の特質と限界を社会経済的コンテキストに照らして分析するとともに、(2) 会計情報と企業価値の関係ならびに会計情報の資本市場における機能について実証的に分析することを課題としています。また、管理会計領域では、(3) 無形資産と企業価値の関係及びそのマネジメントについて研究を行っています。

5. データサイエンス（芝田・増山・山下・近藤・椿本・森口）

IT 革命、DX の進展に伴い、さまざまな意思決定の局面において、データにもとづいて合理的な判断を行えるデータサイエンティストの養成が文理を問わず求められています。データサイエンスプロジェクトでは、日々進化するデータサイエンスを学び続けるために必要な基礎的な数理解析力を身に付けるとともに、モデリング手法とデータ分析手法を学び、意思決定にデータを活用する技能を習得することを目的にしています。また、研究論文の作成においては、現実のシステムを数理モデルとして表現し、モデルを解析することによって課題の解決策を導き出します。

Faculty Member

専任教員一覧 (2024年4月現在)

教員氏名	主な講義科目	研究教育内容
教授 芝田 隆志	企業経済学	専門分野はコーポレートファイナンスです。特に、オプション理論を用いた投資プロジェクト評価モデル、企業の負債評価モデル、などを中心に研究を行っています。
教授 高尾 義明	経営組織 組織行動	組織の境界設定という切り口から、組織と個人の関係(自発性のマネジメント)および組織間関係(技術革新を産出するビジネス・エコシステムの形成)を研究しています。
教授 長瀬 勝彦	意思決定	行動意思決定論に立脚し、人間の意思決定プロセスや意思決定バイアスを研究します。広く経営心理学の領域もカバーします。授業では論理的思考を重視します。
教授 中山 厚穂	マーケティング・サイエンス	マーケティング・サイエンスの各手法を用いて、消費者の行動を計量化することでマーケティング戦略上の意思決定を行っていくための方法論について研究します。
教授 野口 昌良	財務会計	日本の会計制度の特質とそれを制約する基礎的諸条件を歴史分析の手法を用いて析出することを目標としています。
教授 細海 昌一郎	管理会計	現在、知的資本と企業業績・企業価値との関係、知的資本相互間の関係などについて実証的な研究を行っています。また、意思決定・業績管理に関わる管理会計上の重要なテーマについて講義およびPC演習を行います。
教授 増山 博之	応用線形代数	専門分野は応用確率論です。マルコフ連鎖を中心とした確率過程や、行列解析などを道具に、不確実性下の意思決定に関する数理的研究を行っています。最近では、確率統計・最適化・ネットワーク科学に渡る学際的な研究テーマにも取り組んでいます。
教授 松田 千恵子	経営戦略演習 財務戦略論	全社戦略、及び企業経営と資本市場の間にある諸問題を研究します。財務戦略とM&A、企業統治なども扱い、事業・財務・組織を統合して考えることを目指します。
教授 水越 康介 ^(*)	マーケティング・マネジメント	企業と市場の相互作用に焦点をあて、関係性構築のマネジメントを研究します。
教授 森 治憲	統計学基礎	統計学。最近の研究テーマは、近年急速に普及したベイズ法です。特に、事前分布が推定結果に与える影響を研究しています。
教授 森口 聡子	数理最適化	最適化理論、特に組合せ最適化、離散凸解析の研究をしています。数理モデルを通じて経営、社会システムにおける実問題の解決法を研究していきます。
教授 山下 英明	機械学習	数理計画法やモンテカルロ・シミュレーションなどのマネジメント・サイエンスの手法を用いて、経営システムや社会システムの数理モデルを解析します。
准教授 井口 衡	経営戦略	経営者のパーソナリティ特性が企業行動に与える影響について研究しています。最近では、同族企業の戦略的意思決定に関心をもっています。
准教授 加藤 崇徳	経営学	企業経営の時間軸について研究しています。現在は、経営者の時間志向性（長期・短期）が戦略・組織に与える影響や、組織の長期的な学習プロセスなどに焦点を当てています。
准教授 近藤 伸彦	データサイエンス概論	意思決定支援のための機械学習や多目的最適化について研究しています。また、教育（人材育成）や学習を促進するための評価システムも最近の研究テーマです。
准教授 高橋 勅徳	ベンチャービジネス ビジネスイノベーション 演習	ベンチャービジネスを組織論の観点から研究しております。近年は、環境ビジネスとベンチャー企業をテーマにフィールドワークを行い、その成果を教育にも反映しています。
准教授 椿本 弥生	テキスト解析	テキストデータに対して機械学習や可視化を行うことで、教授学習プロセスを支援する研究をしています。教育心理学の知見も活用しながら、教育や文章産出に関する問題の解決を目指します。
准教授 西村 孝史	ヒューマン・リソース・マネジメント	働く意欲を高める人事管理や仕事の設計、リーダー育成などを研究しています。最近では、職場での人のつながり（ソーシャル・キャピタル）と人事管理の関係を研究しています。
准教授 松尾 隆	テクノロジー・マネジメント	製造業、サービス業の保有する技術と持続的競争優位との関係を研究しています。

(*) 水越教授は2025年度にサバティカルのため講義はありません。

Facilities

学習環境

授業開講時間

■ 授業は平日夜間と土曜日に開講していますので、働きながら学ぶことができます。

月～金：5時限 18：20～19：50

6時限 20：00～21：30

土：1時限 10：30～12：00

2時限 13：00～14：30

3時限 14：40～16：10

4時限 16：20～17：50

平日の夜間のMBAプログラム講義は、最初の時限を5時限、次の時限を6時限と呼びます。

丸の内サテライトキャンパス

都心からのアクセスが至便で最新の設備が揃っており、授業の受講の他に自習やグループ研究の環境が整っています。

PC 教室

定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えたPCが準備されており、講義や自習に活用できます。また、日経NEEDS Financial Questなどの企業財務・金融・経済に関するデータベースも利用可能です。

図書室利用

各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした和洋専門書のほか、国内外の多数のジャーナルが開架されています。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、ビジネススクールの事務室を通じて、貸出申し込みを行うことができます。図書室や学外からEBSCOhost (Business Source Elite)、ScienceDirect、Wiley Online Library、Web of Scienceなどの各種オンライン・ジャーナルやデータベースが利用可能です。

膨大な学術文献やデータを検索、閲覧、ダウンロードして研究を進めることができます。



講義風景



共有ラウンジでの自習風景



図書コーナー

From Current Students

現役学生の声

—入学して思うこと—

マーケティングリサーチ会社勤務

原 拓也 (2023 年度入学)

【入学の動機】

学部時代を哲学系の専攻で過ごし、大学院に進学する友人たちを傍目で見ている時は、自分がその道に進むことは考えたこともありませんでした。しかし、社会人として経験を積むにつれ、実務の中では語りえないことや素通りされてしまうことへの居心地の悪さもまた積もるようになっていきました。キレイゴトを綺麗事だと一笑に付すのではなく、また美辞麗句として弄ぶのでもなく、まじめに考え続けるための方法について考えたい、その術として「研究する力」を養うために MBA 入学を検討し始めました。加えて私が重視したのは、当事者として研究することです。つまり「企業で働く人」としてのわたしと「研究する人」としてのわたし、そして「生活する人」としてのわたしを分かち合えるのではなく、地続きの存在として考え続けることを重視しました。このような動機から、社会人を主な対象としながら修士論文（もしくは課題研究論文）の作成を修了要件とする都立大 MBA を選択しました。

【入学して思うこと】

経済学者ジョン・メイナード・ケインズ (John Maynard Keynes) は『雇用、金利、貨幣の一般理論』の中で「知的な感化などとはまったく無縁だと考えている実務家も、いまは亡き経済学者に束縛されているのがふつうだ」(Keynes 1936=2021: 588) と述べています。まさにこのことを、都立大 MBA では実感できます。実務で用いられる「言葉」や、言葉にされない暗黙の「実践」が、経営学の諸理論によって基礎づけられていることにまず驚かされます。次に少人数教育という当 MBA の特色による相乗効果もあって、経営学の諸理論が学生のバックグラウンドに応じて多彩に理解されるさまにハッとさせられます。理論と研究に対して「現実離れしている」というステレオタイプは少なからずあると思います。しかし現実離れしているからこそ各々の現実に応じた解釈と応用が生まれ、そして、それが理論と研究にフィードバックされ相互に発展していくのだと、体感できたことはとても貴重な経験でした。

【これから入学を検討している方へ】

経営学は『世界標準の経営理論』（入山 2019）で示されているように、社会学や心理学、経済学、さらには哲学などの学問が交差する学際的な領域です。そのため、必ずしも「会社の経営」に特段の関心がなくても（あるいはキャリアアップへの特別な動機がなくても）、「社会学／心理学／哲学のような経営学」という形で、日頃の関心事をぶつけられる懐の深い学問だと思います。そして都立大 MBA に入学し、多様な関心と動機を持った同級生とのディスカッションを通じて、その懐の深さを一層強く感じています。ですから「研究者」を目指すと言うのはためらわれる、一方で「研究する〇〇」（〇〇には会社員、経営者、会計士、デザイナー等が入る）としての自らの資質を見定めてみたいという人にとっても、都立大 MBA はうってつけの学修環境だと思います。「働きながら研究すること」あるいは「研究しながら働くこと」の自分なりの型を探求する、エキサイティングな 2 年間になるはずです。

製薬会社 部長

木下 大輔 (2023 年度入学)

【入学の動機】

入学の動機は、経営学プログラムを通じて体系的な組織経営理論や戦略的な課題解決力を学び、環境変化に適応した柔軟な組織運営を行うための思考方法を身につけたいと考えたからです。

2020 年初め頃から新型コロナウイルスが本格的に蔓延したことで、私の勤めている会社でも在宅勤務を行う機会が増えていきました。その数年前から管理職としてマネジメント業務を行っていたのですが、対面であれば問題なく解決できていたことが、在宅勤務でのリモート対応では解決が難しいと感じる場面が増えていきました。振り返ってみると、自分自身のマネジメント方法が、社員同士のコミュニケーションに無意識に頼っていたのが要因だったと思います。このことで、組織運営やマネジメントについては社内外研修や独学で学んでいたのですが、十分ではなかったことに気づかされました。そこで、意図的に組織運営を行う力を身につけるためにビジネススクールに入学し、体系的な組織経営理論や戦略的な課題解決力を学びたいと考えました。

【入学して思うこと】

「学ぶ」ことの楽しさを実感しています。

入学のきっかけが自分自身の課題解決であるため、積極的な姿勢で取り組めるということもありますが、経営学プログラムでは受講可能な授業の幅が広く、興味深いものが揃っているということも大きな要因になっています。組織や経営に関する授業はもちろん、ビジネス文書の効果的な書き方を学べる授業、生成 AI の仕組みを学べる授業、投資のメリットデメリットを学べる授業等非常に幅広い選択肢が用意されており、業務への活用だけでなく、人生にも役立つ授業が取り揃えられています。

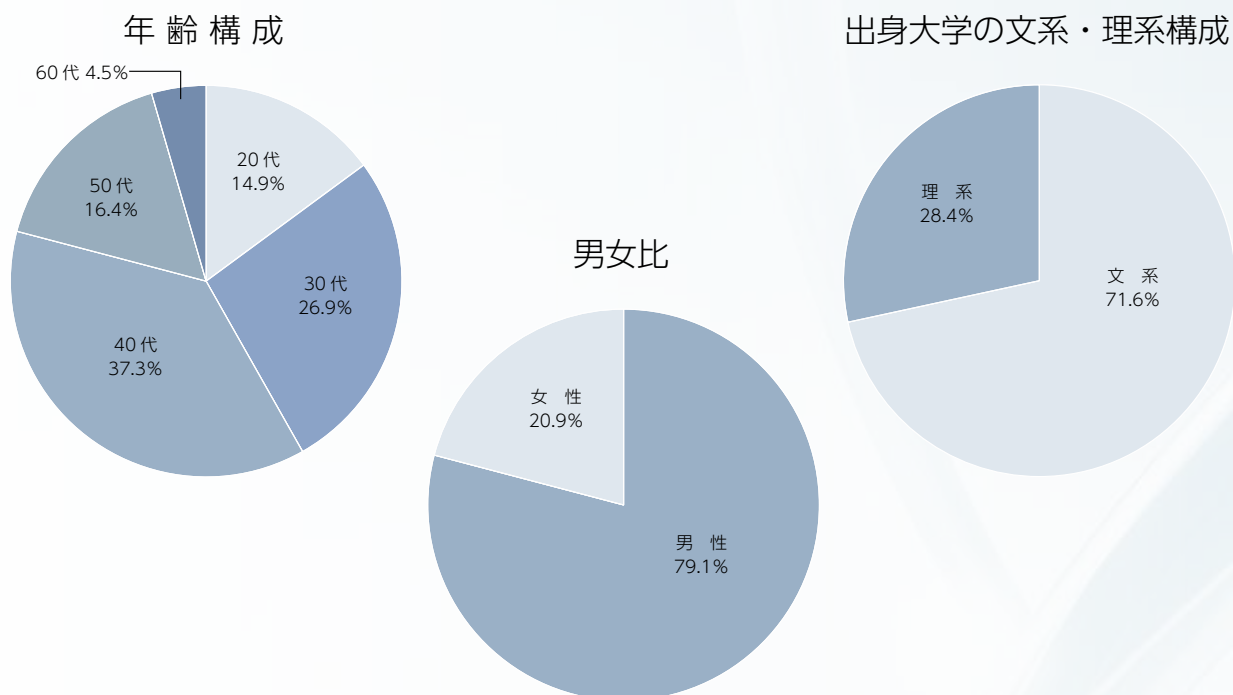
また、同級生からも大きな刺激を受けています。都立大ビジネススクールの特徴として、少人数制かつ年齢層の多様さがあげられると思います。在学生は 20 代から 50 代までと幅広く、授業で実施されるディスカッションでは、年代の違いによる視点や考え方の違いに刺激を受けることができます。授業内容や同級生とのディスカッションは共に、業務では得ることが難しいものであり、刺激的な学生生活を送ることができています。

【これから入学を検討している方へ】

ビジネススクールでの学びは、想像している以上に自分自身の人生に大きなプラスになりますので、少しでも興味があれば挑戦することをお勧めします。私自身、入学前にはいままらビジネススクールに通っても意味がないのではないかと、年齢的に学ぶことには限界があるのではないかと考えていました。しかしながら、入学後に学んだ内容を実務上で実践することで、想像以上の効果を実感できる場面が多々ありました。ビジネススクールで学ぶことができる理論は、経営現場の課題から発生したものが多いことを考えると当然のことなのかもしれませんが、自分自身で実践することで、その有用性をより実感できるのではないかと思います。

唯一後悔していることとしては、もっと若いうちに入学しておけばよかったということです。そのくらいビジネススクールでの学びは大きいと実感しています。ビジネス上で解決したい課題がある、学びたい理論がある等、何かしらの課題を持っている場合には挑戦することをお勧めします。

現役学生の構成（2024年4月現在）



MEc (Master of Economics) Program 経済学プログラム

本学大学院経営学研究科では、2018年度から新たに経済学プログラム（MEc）を開設しました。取得できる学位は修士（経済学）（Master of Economics）です。MEcプログラムでは、近代経済学と歴史からのアプローチに重点を置いており、スタッフの多くは、これまで学術研究に携わり経済学や関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者です。また本プログラムは既に社会人だけではなく、さらに経済学を深く学び探求してみたいと思う大学生にも門戸を開いています。

キャンパスはMBAプログラムならびにMFプログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBAの院生も、MEcの科目の多くを履修することができます。

MF (Master of Finance) Program ファイナンスプログラム

本学大学院経営学研究科は、東京都の成長戦略の一環として、グローバルに活躍できる高度金融専門人材を養成するために、ファイナンスプログラムを2016年度に開設しました。取得できる学位は修士（ファイナンス）（Master of Finance）です。最先端の金融工学を基礎とするファンド・マネージャー、クォンツ・アナリスト、リスク管理者の養成に重点を置きます。国際的水準の教授陣による最先端のカリキュラムを提供し、国際金融都市のアカデミックな拠点を形成していきます。

キャンパスはMBAプログラムならびにMEcプログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、多くの講義は平日の夜間ならびに土曜日に行われます。履修については相互に乗り入れがあり、MBAの院生も、MFの科目の多くを履修することができます。

From Alumnae and Alumni

修了生の声

—学び終えて思うこと—

公益財団法人
日本スポーツ協会
イノベーション推進室
係長

駒田 淳

スポーツ一辺倒の人間でも経営を語れるようになるために

社会人になって10年が経とうとしていた時、就職前に大学、大学院で得た知識や独学で得た知識に頼りながら仕事をするに限界を覚え、次の10年間を見据えて更なるインプットが必要だと考えるようになりました。そのような中でMBAを目指したきっかけは、スポーツ界で働いている中で、国内スポーツ団体の経営基盤の脆弱さが指摘されるようになり、その解決策として民間企業で働く経営人材を外部登用する動きがありました。経営人材の外部登用に反対するわけではありませんが、「スポーツ界の人間に経営はできない」と言われているようで悔しい思いをしていました。そこで、経営学の知識を体系的に理解する必要があると考え、MBAを目指すこととしました。入学当初は経営学のイロハのイも知らず、同級生との知識の差に愕然としました。しかしビジネススクールの授業は、先生による丁寧な座学と膨大な課題、共に学ぶ仲間とのグループディスカッションとのバランスが良く、経営学の基礎知識すら無かった私でも、修了することができました。

事象の背景にあるロジックを追求する好奇心と本質を捉える洞察力及び思考力

これまでは経営を改善した組織による取組、いわゆる表面的な事象しか見ておらず、その取組と結果の因果関係を捉える程度でした。修士論文を執筆する中で関係者にインタビューをして、そこで知り得た経営改善のための取組の詳細やそれに付随する行動が、意図していなかったとしても組織を変革する様々なロジックに沿ったものであったことが判明したり、その組織の業界・フィールド特有の取組を発見したりすることもありました。数多くの先行研究のレビューや主査の先生とのディスカッションをとおして、事象とロジックが繋がったときは何とも言えない快感であり、研究の楽しさを感じました（修士論文の執筆をとおして経験した苦労以上の研究の楽しさに取り憑かれ、博士課程に進学することとしました）。仕事や家庭とのバランスをとりながらの修士論文の執筆は大変でしたが、それを通して得た表面的な事象ではなく、その背景にあるロジックを追求する好奇心と本質を捉える洞察力及び思考力は、実務においても汎用性の高いスキルであり、MBA修了者として活かさなければならぬスキルであると思います。

製薬会社
ファーマコビジランス
本部勤務

紺谷(森) 千穂

“経営学”を仲間と語り合いたい

会社でのプロジェクト管理に試行錯誤する日々の中で、自分のビジネス知識が圧倒的に不足していることを痛感していました。そもそも私はアカデミアの研究職から民間に転職しましたので、一般的な会社勤めとしての社会人経験を年齢程には経験していません。自分の知識不足を補うべく独学で勉強していた時に『経営組織（金井壽宏著・日経文庫）』という本に出会い、自分が仕事で経験する様々な出来事が組織論で研究され、その結果、多くの理論が構築されていることを知りました。ビジネス全般を基礎から学び、経営学について議論したいという自分の目的を達成するためには、業種・職種や年齢を超えて多様なビジネスパーソンと出会えるMBAが最適な場所であると考え、進学を決めました。

自分を客観的に見つめることの大切さ

私にとっての都立大ビジネススクールの2年間は、自分がいる環境で発生する様々な事象を、第三者的視点から捉えるための道具を揃えていく作業でした。その根本にあるのは物事に対して「なぜ？」という疑問を持つ事であって、ビジネススクールはそれに対する回答を自分だけでなく周りの人にもきちんと分かるように説明するスキルをトレーニングする場でありました。授業で出される課題はもとより修士論文の執筆にあたり、自分の考えを論理的に文章化する事が予想以上に困難であることに非常に驚きました。社会人になってから四万字を超える文章を書く機会はなかなか無く、そして書き終わった今も「もっと違うアプローチができたのでは無いか」と振り返る時もあります。しかしこの経験があったからこそ、現状に満足することなくより良いものを目指そうという向上心をこの先も持ち続けられると思っています。

富士通コネクティッド
テクノロジーズ株式会社
サービスイノベーション
事業部

本田 亮

自分の将来を具体化するラストチャンス

私は工学系の大学院を修了して大手電機メーカーに就職し、将来に不安を抱くことがないまま研究活動や製品開発に邁進してきました。しかし、市場は変化し事業構造も変えていかなければならない時代を迎えています。私自身も事業統合や分社化を経験し、新規事業創出や投資家視点での判断が現場に強く求められるようになってきたことに不安が募っていきました。また、ジョブ型雇用の導入や企業内高齢化の対応など人事制度や雇用制度も変えていかなければなりません。組織行動論や人的資源管理の知識を体系的に学び、自分自身をアップグレードしなければならないという想いが高まってきました。加えて、年齢を重ねるにつれて公共活動や社会貢献を意識するようにもなっていました。「自分の将来を具体化するラストチャンス」という決意をし、公立大学である東京都立大学大学院のビジネススクールの門を叩くことを決めました。

現実の課題に論理的に対処する実践力の養成

修士論文を書き終えて感じたことは、「修士論文の執筆は、問題を深く考え抜き、説得性のある理論を構築する訓練である」ということでした。振り返ると、当初の研究計画書で描いた課題は漠然としている一方で、近視眼的に結論を導こうとするアプローチが見え隠れしたものだったと思います。1年以上にわたる研究において、専門書や先行研究論文を読み込み、最新の調査データや統計データから事実を一つひとつ拾い上げ、事実から問いを掘り下げることによって、仮説を説明する理論のフレームワークを作っていくプロセスを学びました。ゼミでは「手がかりを見つけること」、「事実中に潜む問いに気づくこと」を丁寧に指導いただきました。修士論文の事例インタビューのシナリオは理論を裏付けるための具体化された内容となりました。このプロセスは講義では得られないものです。実際のビジネスシーンでは不確実な事態への対応が求められます。修士論文の執筆では、学術的な意義に加えて現実の課題に論理的に対処する実践力が少なからずとも養われたと思います。

経営コンサルタント会社
代表

酒井 とし江

MBA という財産

私は以前、政府関係団体において、中小企業の海外販路開拓支援の担当者でした。しかし、様々な支援ツールを利用して企業が実際に海外展開を成功させることは難しく、時間や資金を無駄に費やす企業も少なくありません。本当の支援は、海外展開という事業のプロセス上のパーツを成功させることではなく、事業を図る上で必要な力が備わっているかを見極めることから始めるべきと気づいたのですが、当時の私はそのための知識やスキルがなく適切なアドバイスができませんでした。その悔しさがMBAを目指すきっかけになりました。都立大大学院にご縁があったのは私にとって大変幸運であり、在学中は仕事との両立に苦労もありましたが、素晴らしい先生方から得た学びや知識は、この春起業した私の財産になりました。

学びの終わりではなく新たな始まりへ

修士論文は業務で関わった日本酒産業を題材にしました。担当先生からご指導頂く度に、自分の思い込みや未熟な部分を指摘され凹むこともありましたが、何とか書き上げることができました。執筆にあたり、先生からご教授頂いた内容は勿論のこと、経営者へのヒアリング、先人の研究論文や資料から得た知識と気づき、それらを体系的に結び付けるプロセス等は、今後の仕事の進め方に大変有意義になると思います。しかし、同時にまだまだ道の途中であると痛感しています。今回、MBAは私の人生のターニングポイントになりましたが、「学び」はこれで終わりではなく、学び続けることが新たにスタートした自分にとってのミッションであると考えます。

Entrance Examination

— 入試関連情報 —

詳細については、必ず公式の学生募集要項でご確認ください。

■ 募集定員

経営学専攻：50名（経営学プログラム、経済学プログラム、ファイナンスプログラムの合計）

経営学プログラムでは30名程度を予定しています。募集定員に満たない場合でも入学を許可しないことがあります。

■ 選抜方法

選抜は9月と2月に実施予定。

提出された書類と本研究科で実施する学力試験（筆答試問、口頭試問）の結果により総合的に判断して決定します。

■ 納付金等（予定額）

入学科：東京都の住民…………… 141,000 円

その他の者…………… 282,000 円

授業料（年額）…………… 520,800 円



AccessMap

東京都立大学 丸の内サテライトキャンパス

東京都千代田区丸の内 1-4-1
丸の内永楽ビルディング 18 階
TEL. 03-6268-0521



入試関係のお問い合わせ先

東京都立大学管理部 | 文系学務課 経済経営学部教務係

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL.042-677-1111（内線 1715、1716）

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット
の方はコチラから

